

神戸市会議員

# ひらの 平野たつじ

発行所

自由民主党神戸市会議員団・無所属の会  
神戸市中央区加納町6丁目5-1  
電話 331-8181 内線 7060



神戸の未来へ—令和8年神戸市会 平野たつじの一般質問の主なポイント(2026年3月27日)

## 既成市街地の再生と子育て環境の充実

兵庫区など既成市街地において、空き家・空き地の活用を進め、まちの魅力向上と住宅供給の促進を提案。

特に、ファミリー向け住宅の不足や子育て世帯の流出を課題として指摘し、民間連携による住宅供給の強化を求めました。

また、兵庫区で未整備の「産後ケア施設」の設置を強く要望しました。



本会議質疑

## 提案が前進！市バス9系統 東山町停車へ



市バス運行の約4分の1を占める回送運行の削減に向け、バス停と交差する地下鉄駅での乗務員の交代や遠隔点呼の導入で回送運行の時間と人手の効率化を提案。

また、路線再編後の課題として、9系統の東山商店街・兵庫区役所周辺へ迂回し、利便性を高めるよう求めた結果、9系統のルート見直しが進み、夏～秋に実証運行予定との前向きな答弁を得ました。

市バステスト走行(東山町)

## 外国人の生活実態を踏まえた福祉制度の見直し

外国人留学生は、学びが主目的であるが、就労制限(週28時間以内)により住民税非課税世帯に該当するケースがあり、制度趣旨と異なる形で給付対象となる課題を指摘しました。

在留資格の情報を制度判定に活用し、制度の適正化を図るべきと提言。

あわせて、国・県への制度見直しの働きかけを強く求めました。



## MICE施設のリニューアル



神戸国際会議場・展示場のリニューアルについて、老朽化対策に加え、4K・8K配信やハイブリッド開催に対応する**高速・大容量通信環境の整備**を要望。神戸空港の国際化も見据え、「選ばれるMICE都市」への戦略的投資の必要性を訴えました。

MICE高速通信ハイブリッド開催イメージ

## 兵庫運河 環境学習施設 誕生へ

兵庫運河に環境学習施設が整備され、今夏(8月末)完成予定。海のゆりかごとして再生が進む運河を舞台に、子どもたちの学びやまち歩き、実証実験の拠点として活用されるよう、交流と関係人口の創出に向け、引き続き取り組みを進めます！



兵庫運河 環境学習施設 外観イメージ

詳しくは次のページ以降でご紹介します



## 外国人の実態を踏まえた福祉制度の適正化へ

外国人の受け入れが進むなか、国においても社会保障制度の見直しの必要性が示されています。

私は、現場を最も把握している基礎自治体として、課題提起の重要性を訴えました。

特に、外国人留学生については、週28時間の就労制限があるが、結果として住民税非課税世帯となる場合があり、本来の制度趣旨とは異なる形で現金給付や福祉・生活支援対象となるケースがある点を指摘しました。

また、在留資格は住民登録時に把握されているにもかかわらず、制度判定に十分活用されていない現状についても課題として提起しました。

### ■ 制度と現場のギャップを是正

市からは「国の制度に基づき適正に実施している」との答弁がありました。

私は、

・市民感情との乖離 ・現場(区役所・社会福祉協議会)での違和感 ・制度の趣旨とのズレを踏まえ、過去の実態も含めた検証の必要性を強く訴えました。

その上で、

・在留資格と制度の連動 ・留学生に対する給付の整理 ・対象の明確化

など、制度の適正化に向けた見直しを求めました。

本会議質疑 2026年3月27日



### ■ 国・県への働きかけを強く要望

こうした課題は自治体単独では解決できないため、国や県に対し、現場の実態を的確に伝えるとともに、

・指定都市市長会 ・担当課長会議

などの場を活用し、自治体間で課題を共有しながら制度改善を進めるべきと要望しました。



## 要望：MICE施設のリニューアル

神戸国際会議場・展示場のリニューアルについて、安全対策や老朽化対応に加え、これからの時代に対応した機能強化が不可欠です。今後は、・4K・8Kの高精細映像配信 ・複数会場をつなぐハイブリッド開催 ・遠隔参加型イベントなど、大容量通信を前提とした運営が主流となります。そのため、高速・大容量の通信インフラ整備が不可欠であり、神戸が「選ばれるMICE都市」となるための重要な要素です。さらに、神戸空港の2030年の国際定期便就航も見据え、戦略的な通信環境整備を強く要望しました。

### ■ 兵庫運河に新たな環境学習拠点が生れる

兵庫運河の環境学習施設については、私が2024年の本会議で整備の必要性を訴えてきましたが、このたび本年4月より設計・工事に着手し、2026年8月末の完成が予定されています。

近年、兵庫運河では水質改善や自然再生が進み、豊かな生態系が着実に回復し、「海のゆりかご」としての機能も戻りつつあります。こうした変化を「学び」へとつなげる拠点として、本施設は大きな意義を持ちます。

完成後は、子どもたちの環境学習の場に加え、「兵庫区の三大土木遺産」や「兵庫津」を巡るまち歩き拠点としての役割も期待されます。また、これまで大学・研究者・企業により行われてきた、ブルーカーボンや海洋資源、海洋機械などに関する実証実験を支える拠点としての機能も担います。

多様な人が集い、学び、交流することで、兵庫運河の魅力発信と関係人口の創出・拡大につながることを期待しています。今後も、兵庫運河の魅力向上と地域資源を活かしたまちづくりを推進してまいります。



兵庫運河 環境学習

### ご挨拶

最後までお読みいただき、ありがとうございます。日頃より温かいご指導に心より感謝申し上げます。本市政報告では、令和8年3月の一般質問(本会議)での質疑を中心に、これまでの取り組みをまとめました。これからも地域の声に耳を傾け、身近で信頼される市政を目指してまいります。今後とも変わらぬご指導とご意見をよろしくお願いいたします。

## 市バスの効率化と利便性向上へ

市バス事業は厳しい経営状況が続くなか、運行効率の向上と利便性の確保が重要な課題となっています。私は、運行全体の約4分の1を占める「回送運行」の削減に向けた具体策を提案しました。

### ■ 市バスの回送ロスへの新たな取り組み

市バスは走行距離の約4分の1が回送運行となっており、効率化は大きな課題。

回送ロスの削減に向けて、昨年9月に質疑した地下鉄駅を活用した乗務員の交代方式の今後の展開について質疑。具体的には、地下鉄駅構内に運転手の待機場所を設け、営業所ではなくバス停で乗務交代を行うことで、同じ車両を継続して運行ができ、回送の削減と車両稼働率の向上が図れるのではないかと。

➡ これに対し交通局長は、地下鉄「旧居留地・大丸前駅」のスペースを活用し、元町1丁目停留所での乗務交代を令和8年4月1日より試行的に実施する方針を示しました。これにより、出先のバス停で乗務員が交代することで1台の同じバスを継続して運行できるため、回送の削減とバス車両の効率的運行が図れる。合わせて地下鉄駅の空きスペースに市バス運転手が待機できる環境も整えていると答弁。一方で、遅延時の対応などの課題もあるため、試行運用を通じて効果と課題を検証し、改善を図りながら効率向上の運用を目指すとしています。

🗨️ 私は、厳しい経営状況のなかで、こうした取り組みを着実に進めることが重要であると考えており、引き続き市バスの利便性向上と経営改善に取り組んでまいります。



旧居留地・大丸前駅

### ■ 遠隔点呼の導入でさらなる効率化へ

市バスの運行効率化に向けて、私は運転手の点呼方法の見直しについて提案。

現在は対面での点呼が原則ですが、制度改正により遠隔点呼の活用が可能となっています。

🗨️ 私は、地下鉄駅などで遠隔点呼を行うことで、運転手がそのままバス運行に入れる仕組みを構築すれば、出勤の利便性向上や回送ロスの削減につながるのではないかと提案しました。また、業務効率化の観点から、自動点呼の導入についても検討を求めました。

➡ これに対し交通局は、遠隔点呼について、運行効率化や働き方改革の観点から有効であるとし、まずは北町操車場で試行的に導入し、課題検証を進めた上で、令和8年度後半から本格運用を目指す方針を示しました。

### ■ 9系統ルート見直しで利便性向上へ

🗨️ 私は、路線再編により、兵庫区役所や東山商店街方面へ不便になった市バス9系統の具体的な迂回ルート提案。2025年9月の質疑についての進捗状況を質疑。(ルート図ご参照)

➡ 交通局は、側道(大型車両通行禁止区域)を活用した新たなルートについて、2026年1月20日に兵庫県警、関係部局とともに、市バス車両を用いてテスト走行を実施し、物理的に走行できることを確認。国土交通省へ路線新設の認可申請を行いました。

認可には、概ね3ヶ月程度要する見込み。この許可申請を受け、兵庫県警にて、路線バス通行規制解除に向けた手続きが進められることとなります。今後、国土交通省からの路線認可がなされ、兵庫県警における規制解除、また標識柱等の工事などの整備が整い次第、概ね夏から秋頃に一定期間の実証実験運行を行いたい。また実証実験運航の結果を踏まえ、実際の利用需要を測り、本格運行するか判断したい。との前向き答弁。



提案新ルート



新ルートテスト走行 2026年1月20日

### ■ 地域の声を形に

私は、地元の声をもとに実現に向けた提案、関係機関との調整、兵庫県警等への相談・協議を重ね、具体的な前進につなげてまいりました。

引き続き、安全を最優先としながら、運行効率の向上と利便性改善の両立に向け、実現可能な改善策を考え提案し、持続可能な便利な公共交通の実現に取り組んでまいります。



新ルートテスト走行説明

神戸市議員平野達司(たつじ)事務所  
神戸市兵庫区東山町2丁目8-61 マルシン市場2F  
TEL:078-531-8780 FAX:078-531-5301  
メールアドレス:th.tatsuji.hirano@gmail.com



平野たつじHP

神戸市会の本会議、委員会を  
インターネットにて  
閲覧できます。



神戸市会

## 既成市街地の再生と子育て世帯に選ばれるまちへ

神戸市では、2030年までに5,000戸以上の住宅供給を目標に、官民連携で取り組みが進められています。その中で私は、兵庫区などの既成市街地において、放置されている空き家・空き地の活用を進め、まちの魅力向上と子育て世帯に選ばれる住環境整備が必要であると訴えました。

➡ これに対し久元市長からは、小規模な私有地や公共施設跡地の活用、空き家・空き地の利活用、民間事業者との連携を柱に、住宅供給と既存ストックの活用を進めていくとの答弁がありました。

また、市では

- ・空き家相談窓口の設置
- ・空き家・空き地バンクによるマッチング支援
- ・改修費や維持費への補助制度

など、所有者・事業者双方への支援を進めていることも示されました。



本会議質疑 2026年3月27日

### ■ 「発生前対策」とスピード感ある対応が鍵

一方で、空き家の多くが相続が原因で発生しているのが現状です。市長からも、相続前からの意識啓発や早期対応の重要性が示され、セミナー等による啓発を進めていく考えが示されました。

🗨️ 私は、「購入希望者がいても相続問題で活用できない空き家」という地域の実例を挙げ、よりスピード感ある対応の必要性を強く指摘しました。



### ■ ファミリー向け住宅不足への対応

兵庫区ではワンルームマンションの増加が続く一方で、戸建てやファミリー向け住宅が不足しており、子育て世帯の流出につながる懸念があります。

➡ この点について市長からは、接道要件を満たさない土地でも、安全性が確保できれば建築が可能とする仕組みや、許可基準を明確化し、不動産事業者への周知を進めているとの答弁がありました。

🗨️ 私は、こうした制度のさらなる周知と民間連携の強化により、既成市街地でも多様な住宅供給を進め、「住み続けられるまちづくり」を実現すべきと提案しました。



### ■ エリア全体で進める空き家対策

市の調査では、空き家問題は個別対応だけでなく、地域単位での“面的対策”が必要であると示されています。建築住宅局長からは、

- ・坂の地形を活かした店舗活用
- ・学生寮の整備による地域活性化
- ・商店街と連動した宿泊施設の展開 などの方向性が示されました。

🗨️ 私は、兵庫区には大学がない現状も踏まえ、学生寮の導入などによる地域活性化の可能性に言及し、実効性ある取り組みをスピード感を持って進めるよう求めました。



坂のまち神戸プロジェクト

### ■ 兵庫区における子育て環境の充実を(産後ケアの兵庫区での整備を要望)

兵庫区では、産科の再開や小児科の開設、病児保育施設の整備など、子育て環境は着実に前進していますが、産後ケア施設が区内に未整備であり、多くの方が区外の施設を利用せざるを得ない状況にあります。

産後ケア事業は、育児不安の解消や産後うつ予防につながる重要な取り組みであり、神戸市では現在、助産師を中心に市内36か所で実施されており、利用率は全国平均の倍以上と高く、多くの方に活用されています。

🗨️ 私は、移動負担の軽減と子育て世帯の定着の観点から、兵庫区内での産後ケア施設の設置が不可欠であると強く訴えました。

➡ こども家庭局長からは、市内のすべての地域の方に安心して産後ケアをご利用いただけますよう、兵庫区での分娩の取扱いを開始する産科医療機関に対して働きかけを行うなど、実施施設の拡充に取り組んでいくとの答弁がありました。

